

# 隊友 船橋だより

平成25年1月号 千葉県隊友会船橋支部事務局

## 森良雄船橋支部長新年の挨拶

「謹賀新年

平成二十五年の年頭に当たりごあいさつ申し上げます。  
昨年末の衆議院選挙により、新しい政権が樹立されました。  
国のしっかりとした指針が示されることと期待しております。  
我々の母体である自衛隊（もしかしたら組織が変わるかも）に  
とって新たな指針が追い風なるか、実質向かい風になるかは  
予測つきませんが国力の低下と多様化する価値観のもとでは  
バランス感覚が重視されるものと思います。  
時流はまさに自衛隊にとって開国といえるのではないのでしょうか。  
今までも一部で対象は世界でありましたが、このことがさらに  
深く要求されるでしょう。  
彼らはまさに「世界と戦える軍隊」になる努力をしています。  
昨年夏船橋支部長に推薦されました。いろいろな問題も起きています。  
そういった中で在郷軍人会たる隊友会も一皮剥けて行くことが  
求められる時代になってきたと思います。  
過去を懐かしむ仲良しクラブである一面を大切にしながら  
現在の隊員のために協力できることを模索するべきと思っています。  
今年は船橋支部会員の皆さんの英知を集めて出来ることを具体化して  
行きたいと思います。そのため集える機会を増やしていきます。  
第2第3の人生において充実感、達成感を感じ、誇りの持てる生活が  
遅れる面白い隊友会にしようではありませんか。  
それが「世界で戦える軍隊」をサポートすることではないのでしょうか。  
今年一年皆さんの協力をお願いします。  
そして今年一年皆様が健康で幸せでありますように！」

事務局長 岡本勉

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、久々の支部総会を開催し34名が参加して頂いて事業計画の中も方針で述べておりますように「市民と自衛隊の掛け橋」「防災意識の普及高揚」「公益目的事業の推進・拡充」「支部会員の福祉と親睦の為の事業の推進」「会の魅力化」に努力いたします。

その為に、電子メールや船橋だよりを活用し会員に速やかな情報伝達に努めると共に会員の意見をお聞きしその要望にお応えすると共に役員の業務簡素化にしたいと考えております。

会員の皆様は、パソコンや携帯、タブレット等メールをお持ちの方は事務局長電子メール ([zauru001@mvh.biglobe.ne.jp](mailto:zauru001@mvh.biglobe.ne.jp))宛てに登録して下さい。

今年、3月ごろ「西部防災センター」（所在地松戸市）を見学し防災学習を予定しておりますのでお楽しみにしててください。

会員の皆様、御家族のご多幸をご祈念申し上げ新年の御挨拶とさせていただきます。

# 出羽三山 鍊成修行道場 奮闘記



2012/08/20

24年8月18日～20日

## 出羽三山神社・練成修行道場体験記

## はじめに

平成19年の末頃、来年は「古希」と云う年になる、何かこれからの人生に思い出に残る事は無いかな？ テレビで、出羽三山の山伏講、を思い出し、応募したが抽選でハズレ、24年度は参加を許可された。練成修行道場とは、とにかく「山伏勧進か？」人に聞いてもそれらしい回答が得られず、申込要項に、三山駆・歩行距離差 15km約6時間に耐えうる者、月山本宮、湯殿山、<sup>湯殿山</sup> 禊（水行）の出来る方と有った。兎に角体力の練に、足腰を鍛えなければと取り組み、4月に、高尾山 8月始めに筑波山へ、小学3年生の孫を連れ、山登りを実行し体力練成に努めた。

## 行動開始

8月17日、2時、家を出、八重洲口前、夜行バス乗車位置に行き、横浜から客を乗せたバスに乗り、新宿駅で同行の？を乗せ、高速道を一路山形県鶴岡市へ進行。終着駅に予定通り、7時45分到着。相乗りタクシーで、三山神社事務所へ（4,800円）滑り込みセーフ。

## 出羽三山練成修行道場開始

受付を済ませ、早速「行衣・巻きケハン・受領」し、着付けの指導を受け、初めての品ばかりで右往左往、何とか山伏の格好は？計画通り行事が進む、官司挨拶・開所奉告祭・表参道登拝等の要領を受講した。



出羽三山神社到着白衣に着替えて9時10分



羽黒山神社へ、登山出発完了10時30分

身丈を整え、羽黒神社へ出発、随神門から始まる表参道へ、継子坂一級川神橋を渡ると左手に籬杉が（天然記念物、周囲10m、樹齢千年とか）少し進むと、国宝羽黒山五重塔・天拝石（昔修者がこの石の上で行ったと言われる奇岩である）表参道は、全長1.7Km 2,446段の長い石段の道が続き、樹齢350～500年の杉並木を登り抜け。一の坂 → 二の坂 → 芭蕉三日月塚を見て三の坂を越えると「斎館」羽黒三山参籠所に到着・羽黒山神社・出羽神社（本殿）12時から「斎館」で最初の食事会。食事会の作法がチョッと違う、組み長が、号令発し食前感謝の令で、「静座」一拝一拍手と唱え、全員が一拝一拍手する、次に、全員で「たなつちの草木もあまてらすの大神のめぐみえてこそ、頂きます。」と唱、食事が始まる（勿論食事中は無言）

全員が食べ終わった時を見計らい、食後感謝の号令「端座」と唱え、全員が一拝一拍手し全員で「朝よひに物くふごとに豊受の神のめぐみを思へ世の人。御馳走さま。」と唱え箸を置き、食事が終わる、毎食時の都度行われる。もう一ッ不思議なことがある。

今日、昼食時使った「箸」を練成修行の最後の(20日)昼食事まで、持ち歩き使用するのだそうだ。

13時 三神合祭殿に正式参拝・「神拝詞」に入り、「<sup>讃</sup>詞」掛けまくも畏き 伊弉諾大神 筑紫の日向の <sup>橘</sup>小戸の阿波岐原に ~ ~ 「三語」(3回奉唱) <sup>讃</sup>の罪穢<sup>つみ</sup>穢<sup>つみ</sup>ひ覆<sup>ふく</sup>て清<sup>きよ</sup>まし。 「三山拜詞」 誠に縁に奇しく尊と 月山神の御前を拜み奉る一・一・等々、神の言葉は初心者には解らない。(数回参加の方、大声でドンドン拝詞していた) 三神合祭殿正式参拝、16時30分、行法指導(讃嘆)等終了。バスに乗り、月山八合目まで移動、17時到着、山中之宮正式参拝、御田原参籠所(宿泊場所)19時から食事の作法を済ませ食事・事後自己紹介、イアーイヤー 素晴らしい、今回で9回目とか、4回目、5回目とか、夫婦が3組、埼玉県×8名・東京都・宮城県各々6名・千葉県が5名、年代では60代・50代が多く、男性36名・女性が17名、計53名。21時 酒灯 就寝。

## 2日目(8月19日 日曜日)

3時30分起床、準備、4時登山開始(月山へ) 晴い、細い・急坂路 登山道を懐中電灯を灯し一歩一歩と進む、前の行者が辿った所が良いか? 少し右の岩を踏んだ方が? 安全に山道・夜道を辿る。4時30分やっと明るくなった、何時の間に山林を過ぎ、笹藪道を進む、道は板敷道に、これなら歩き易い、何処まで続くかの道ぞ。東の空が明るく成って来た、5時休憩、九合目、佛生地小屋 5時45分到着、眞名井神社参拝、6時に携行の朝食、7時15分 標高1,800mの標識の有る所で休憩の声掛けが掛かりホット安心。遠く左前方に高い山が経験者に聞くと、鳥海山だとか、近くの窪地の斜面に雪渓が、五箇所・六箇所、今年は降雪が多かったとテレビ等で報道していたがこの時期まで残っているとは、記録的な降雪だったんだろうと想像し。気持は雪渓の所まで行き、雪に触れたい衝動が(長期の空気中のゴミで真黒)道が無い・体力・他に迷惑を、遠くから眺めて諦めるしかない。

7時55分 月山頂上到達(1,984m) 8時から月山神社本宮正式参拝、(拝殿を済ませ、ハチ巻きに「朱印」を押して貰う) 8時50分、湯殿山へ下山開始、急斜面の山を下るのは非常に疲れる、斜面の状況・踏み位置の形等々 前行者が行った跡を見極め安全第一で下る。真下に小屋が見えるがなかなか到着しない、雪解け水が湧き出て小滝に流れ落ちる水の音だ、少し下ると、湧水が出て、最適な水飲み場が、行者が入替わり・立ち替りして「水飲み休憩」冷たい3°.4°C位??生き返ったよう。

千人沢到着、急斜面を梯子を伝わって、三箇所・四箇所下りる(梯子降り、登りより怖い)前方が急に開けて来た、遠く道路が見え、山ハゲの左に、鳥居が見えてきた、目的地は遠くない、程なく車道路に出て隊列を組みヒタスラ歩く、経験者に聞くと、2km位下った所が湯殿山参籠だと教えられ一安心。30分程歩き、13時過ぎ 湯殿山参籠到着。

13時20分昼食、休憩。午後からの「<sup>禊</sup>」の身支度、休んでいる暇なし、「フンドシ」着けて、「ワラジ」履、14時10分湯殿山参籠を、法螺貝の合図で湯殿山神社へ出発、先ほど歩いて来た道を逆戻りし、湯殿山神社本宮正式参拝、礼拝し、お神酒を頂き、ここで変わった神業が??神團から、人の形に切り抜いた紙を貰い(紙には、もろもろの つみげがれを はらひたまへきよめたまへ と印刷されている)その紙を自分の身体のいたるところに、万葉に押し付け、で神殿の近くを流れる小川に流すのだそうで、(川岸には沢山の人の形、折りの紙札が漂んでいる)湯殿山正式参拝している間、に急烈な夕立が降り出し、更衣室の天幕に一時避難、どうなる事やらと心配していたが、通り雨で、神の助けか??参拝終わり帰り支度する頃には、雨は急激に止み、普通通り、昨日通った道を、17時には湯殿山参籠へ帰り着いた。

17時20分 湯殿山本殿で、約1時間 護摩祈祷が行われた。夕食 風呂 21時 酒灯 就寝。



3日目 (8月20日 月曜日)

5時 起床 御沢駆の準備し、フンドシ絞めて(昨日の濡れた袴・ケハン・草履履) 5時30分 法螺貝の合図で、2列で湯殿山参籠所を後にし、昨日の道を登り、赤い橋の所から、いよいよ「御沢駆・渡」の行に入る、小川に入ると「雪解け水が流れ(水が冷い) 岸辺を選んで、右に寄り、左に進み足場を気にしながら、前者の後を追う、「巻きケハン・ハカマ」一段とズブ濡れ、マッ黒によごれ、これが「沢駆け」修行か?? 前方滝が見えて来た、入水「滝裏」の場だ! 二連の滝が見えてきた。「水行渡の場」6時30分到着。まず服装。「身洗」の際、男子は白鉢巻、白禪、女子は白鉢巻、白半褌神、白帯、白下ばき、で行う。「鎮魂」行事に入るのだが、1日目に「行法指導」の時一応要領は教わったのだが、一回では要領を得ず、道彦 権 福直 (一般的には案内人?) 高橋 徳善氏が全てを指導して下さいました。氏のするがままに真似て動作を行う。「道彦の号令に合せ」二拝二拍手合掌、鼓 詞を斉唱する。

① 船行事 (左足を斜め前に踏み出し、両手を突き出して握り、上体を前に倒し、両手を引き寄せ、「イーエッ」と遣っし、前下方へ突き出す時に「エーイッ」と唱え。以下諸動作が有り、②雄健行事③雄詣行事 ④気吹行事 ⑤身洗行事) 道彦が皆に諸動作を示し、次々に行っていく(普通で言うなら、滝壺裏に這入る前の、準備運動みたいな)「滝壺裏」に入ると各人両手を組み、其々にお祈りする様に、小刻みに振り、お祈りしながら、入水 滝壺に入り滝に打たれる(ツメタイー 長くは居られない)約40分の「水行渡修行」を終え、白衣・ハカマ 着て垂直な梯子段をよじ登る、湯殿山神社本宮で、昨日も正式参拝し



19日13時湯殿山参籠に到着し休息 2012/08/19



20日5時身洗駆け



7時禪を替え



頭を替え

20日27時/20

たが、今日が祝願儀・滝壺儀やつたので、正式か？ 人形の紙札をいただく「もろもろのつみかけれをはらひたまへきよめたまへ」身体中に押し当て、人形の紙札に、我が身の 罪・汚れ等を託して、お祈りして水面に流す。次に、お神酒を頂き、ハチマキに「朱印」を押してもらい、湯殿山での修行は「祝願儀」「身條」で終わった。

少しの休憩が有り、この地には温度は低いが温泉が湧くらしく、滝壺の一角で、赤い地肌の所から流れ出ている水は、暖かい、本殿上の禿山の一角からも地肌が赤く、暖かい水が流れ出ている。

滝壺の流れ落ちる水は、非常に冷く、チョッと変な所ころ。本殿を出た一角に、温度は低いが足湯の施設が有り、行人に疲れを癒す場所があり、我々も、しばしの間足湯に浸り幾分なりと疲れを癒した。

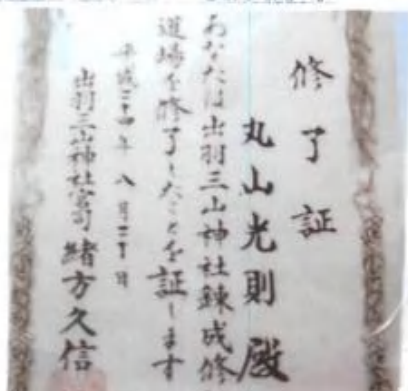
8時出発し、湯殿山参籠へ帰るのだが、この道は、昨日月山から下りてきた時・昼食を済ませ歩いて本社本宮参拝・今日「祝願儀」とあわせ三往復した事に成る。

参籠までの間、七・八ヶ所位色々な神様が祀って有り、その前を通過するたびに、二拝 二拍手して次に進む、隣と話している間ついウツカリ通過してしまう。

慣れた道・ゴールは間近・足取りも軽く、前方に湯殿山大鳥居が・右側前方にハグた崖が（どうもあのハグた崖は不自然だ、湯殿山本宮・滝壺を実施した周辺にも有った）湯殿山参籠所の向かいの丘だ、平地になり、湯殿山参籠所の前に到着、法螺貝の高らかなゴールの合図が。 8時30分、大鳥居の根元の水道で（ツメターイ水）手を洗い、口をススギ、玄関先で座り込み、履いた「ワラジ」の紐を、アア一終った一、ワラジよ一、無事で着いた 無事終った一ア、ご苦労さんと言ひ紐を解く。

8時50分 最後の出羽三山鎮成修行道場での朝食（精選料理）だ。 9時から、「閉所奉告祭」：談 詞・三 語・神 棚 拝 詞 等等叫へ、最後に 神社 宮司代読で 緒方 久信 殿からの「修了証」書が参加者に配布された。

解散となり、鎮成修行間使用した、白衣・白袴・白脚絆は簡単にたたみ、返納、白鉢巻・草鞋・菅笠は、各自持ち帰りで急ぎ私服に着替える。帰りは、神社仕立のバスで、10時出発、鶴岡駅へ、湯殿山有料道・国道112号線を経由し、鶴岡駅に11時10分到着 3日間共に、修行道場、山駆けに・祝願儀・滝壺水行等、お世話になった修行道場の仲間達よ、お元気で サラバヨ一 さようなら一。



## ま と め

とにかく4年越しの思いが叶った、落伍する事なく、無事で全ての行を遂行出来た事に「神様」に報告すべきか？ 言っている 神事（詞）の言葉・動作が判らず、人の背後から見よう見真似で行なった。「神 拝 詞」の語句を認めれば、その通り行なえば、何のオチもない、神業だ（俺にはデーキーナーイー）

でも、参加者の中には、7回目8回目、次も応募するのだと？中には家系が「神道」で、神道の学校に行ったと云う方が二人居た。長い人生の間この様な仕事も必要かも、特に仕事真っ最中の頃（40代後半50代頃）が効果的と推察する。3日間の「修行道場」が有意義であったという事は言うまでもないが、今後の人生に、何らかの方法で役立てたいと心に誓うものである。